

出会い系サイトで援助交際相手を募って少女を派遣する「援デリ」業者が、警察当局に相次いで摘発されている。男女が直接やり取りせず、業者が仲介することで、気軽さや安心感が生まれるのが盛況の理由のようだが、客からの脅迫など危険なワナも潜んでいる。

(滝口亜希)

## 核心

### 元手いらず

《パソコン1台あれば店舗がなくても始められる》

3月16日、援デリを運営したとして警視庁に児童福祉法違反(淫行)と売春防止法違反(周旋)の疑いで逮捕された東京都港区の無職男(32)の関係先から見つけた「援デリ事業計画書」と題する文書には、元手いらずで稼げる「援デリのメリット」が書き込まれていた。

援デリとは、少女らが体を売る「援助交際」と派遣型風俗の「デリバリーヘルス」を合わせた造語。業者は女性を装って出会い系サイトなどで客を募集。「キャスト」と呼ばれる援助交際希望の少女と男性客を引き合わせ、紹介料として「援助交際費」の一部を受け取る仕組みだ。

警視庁に逮捕された無職男は「アルバイト感覚で始めた」と供述。客の募集から売り上げ管理ま

# 「援デリ」少女が危ない

で1人で行っていたという。

### プロも参戦

援デリをめぐるのは、今年に入ってから神奈川県警が「(援デリの)渋谷グループの責任者」を自称する大学生の男(19)を逮捕したほか、警視庁も女子中学生(15)にわいせつな行為をさせたとして、男女3人のグループを逮捕するなど摘発が相次いでいる。

風俗ライターの村上行夫氏によると、援デリが登場したのは3年ほど前。女の子が素人で、ほとんど10代と若いことも人気を後押しし、プロの風俗嬢が登録している場合すらある(村上氏)という。

警視庁に逮捕された男女グループは、16〜18歳の少女を中心に延べ約40人をキャストとして派遣し、平成20年10月からの1年間で約3360万円を売り上げていたとみられる。キャストの取り分は客が支払う1回2、3万円の代金の約半分。15日間で25人を相手にした女子高校生(16)は35万6千円を得ていた。

ただ援助交際と同様、少女がトラブルに巻き込まれるケースも少なくない。

女性の売春問題に取り組むNPO法人「ポラリスプロジェクト」日本事務所所長藤原志帆子コーディネーターは、「客に裸の写真を撮られて脅されたり、性犯罪に巻き込まれたりする場合もある。非常に危険な環境に身を置いているということを認識してほしい」と呼びかける。

(MSN産経ニュースでは【衝撃事件の核心】のタイトルで掲載しています)